

## 2024 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	深谷和広
最終学歴	学 位	専門分野
立命館大学大学院経営学研究科企業経営専攻博士後 期課程満期退学	経済学修士	会計学

### I 教育活動

#### ○理念・目標・方針・計画（方法）

##### 【理念】

「三つの言葉」(建学の精神／校訓／教職員の心構え)並びに「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」のブランドコンセプトを教育・研究・大学運営・社会活動の諸活動の理念とする。

##### 【目標】

経営に必要な知識と技術を修得させ、地域で事業活動を行う企業や組織においてリーダーシップを発揮して活躍できる人材を育成することを目標とする。

##### 【方針】

簿記会計、会計学、財務諸表論などを通じて基礎的な専門知識を身に付けた人材を育成する。また、「オンリーワンを、一人に、ひとつ」の理念のもと魅力ある社会で活躍できる人材育成に邁進する。

##### 【計画（方法）】

校訓「真面目」を強く意識し、学習への真面目な取組みの基本姿勢を伝える。また学習内容に興味のわく分かりやすい授業実践を進める。また演習では、学生の主体的な学びを前提とし、愛情と情熱をもって魅力ある社会で活躍できる人材育成教育を実践する。

#### ○担当科目（前期・後期）

（前期） 簿記会計Ⅰ、会計学、原価計算論、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期） 簿記会計Ⅱ、財務諸表論、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

#### ○教育方法の実践

2020年4月コロナ禍以来3年が経過した。コロナ禍以前のように対面を前提とした効果的な授業内容として見直しを図った。それぞれの科目では、対面授業のメリットを生かすべく魅力的な授業となるように努めた。また対面する学生の理解度を常に意識し、授業内容の理解を深めるため板書とネット資料を連動するように活用した。演習科目では、授業内での学生相互のコミュニケーションを意識し、アクティブな演習運営に取り組んだ。また演習活動を通じてチームワークを深めた。

#### ○作成した教科書・教材

「簿記会計Ⅰ」「簿記会計Ⅱ」「原価計算論」「会計学」「財務諸表論」のそれぞれの科目で、テキストと連動した独自の学習資料を活用し、学生の理解度を踏まえ、学生にとって興味をわく授業運営に積極的にとり組んだ。フィードバック資料としてチームスの資料を活用した。またチームスの課題機能を用いて、適宜理解を深める課題を課すなど自主学習を進めるように授業運営に努めた。

## ○自己評価

「簿記会計Ⅰ」「簿記会計Ⅱ」「会計学」「原価計算論」「財務諸表論」のそれぞれの科目では、独自資料を活用して学生自ら学習できる授業運営にとり組んだ。対面授業のメリットを生かして学習目標を達成できるよう学習環境の整備に努めた。演習活動ではコミュニケーションを重視するゼミ運営を実践することができた。ゼミ運営で個別対応に配慮し、個々の学生の授業満足度を高めることができた。コロナ禍の影響がまだ残るものの、自ら学ぶ学習姿勢を育てるという教育目標を達成することができた。

## Ⅱ 研究活動

### ○研究課題

ビジネスの国際化における我が国企業会計制度との比較研究－日・米・英を中心に

### ○目標・計画

#### 【目標】

我が国の企業会計制度への研究貢献を目指し、国際化の進む我が国の企業会計制度について日・米・英の制度比較を通じて国際会計基準の実態把握を進める研究を行う。

#### 【計画】

ビジネス活動の国際化を踏まえて、国際会計基準を中心として日・米・英の制度比較研究を行う。特に、開示基準の設定に注目し、その現状を解明すべく研究活動を進める。この研究成果は教育活動並びに会計研究学会等の学会活動を通じ情報発信する。

### (著書)

### (学術論文)

- ・ 深谷和広：「IFRS18「財務諸表における表示及び開示」へのイントロダクションー基本財務諸表プロジェクトの帰結ー」、同志社商学第75巻第5号、2024年3月14日、107頁-122頁
- ・ 深谷和広：「IASB基本財務諸表プロジェクトの予備的検討ーEBITと経営者業績指標の導入の方向性ー」、東邦学誌第47巻第1号、2018年6月10日、145頁-157頁
- ・ 深谷和広：「IASB討議資料『開示原則』の検討」、東邦学誌第46巻第2号、2017年12月10日、203頁-217頁
- ・ 深谷和広：「『IFRS実務記述書：重要性の適用』の検討ー重要性のプロセスを中心にー」、東邦学誌第46巻第1号、2017年6月10日、141頁-153頁

### (学会発表)

該当なし

### (特許)

該当なし

### (その他)

該当なし

### ○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

科学研究費補助金への申請は行わなかった。

#### ○所属学会

日本会計研究学会、税務会計研究学会、国際会計研究学会、会計理論研究学会

#### ○自己評価

2024年度も財務諸表における開示問題への国際会計基準審議会（IASB）の取り組みに関する調査研究を進めてきたIASBの基本財務諸表プロジェクトの進行状況を分析する活動を実施してきた。今年度もその成果物である国際会計基準第18号「財務諸表における表示及び開示」に関連する開示の論点の調査研究を進めることができた。今後も企業会計制度における表示と開示の問題を中心に位置づけることを積極的に進めて行きたい。新たな会計制度の変革について研究を深めて発信する予定である。

### III 大学運営

#### ○目標・計画

##### 【目標】

建学の精神を意識し、「真面目」に情熱をもって学務分掌の職責をはたし、大学運営に貢献する。また、「オンリーワンを、一人に、ひとつ」のフレーズを大学運営に反映する。

##### 【計画】

学部長補佐並びに地域ビジネス学科長として大学・学部業務を推進する。特に、25年度学部学科の新設準備に邁進する。また所属委員会の構成員として担当業務を遂行し、大学の発展に寄与する。

#### ○学内委員等

自己点検・評価委員会、保健・学生相談センター運営委員会

#### ○自己評価

学部長補佐・学科長として経営学部長を補佐し、学部執行部の円滑な運営と学部教育の発展に資する活動に邁進してきた。2025年度経営学部新学科の開始の準備作業に積極的に関与し、学生募集活動に貢献することができた。また学内委員として大学教育全体の発展に資する活動を積極的に行ってきた。

### IV 社会貢献

#### ○目標・計画

##### 【目標】

2024年度愛知大学野球連盟の理事として連盟活動に関与し、連盟の発展に貢献する。

##### 【計画】

2024年度事業計画に基づき、春秋リーグ戦の事業を運営し、魅力ある大学野球を実現する。

春秋リーグ戦の活躍を通じて大学野球の魅力を発信し、愛知東邦大学の魅力向上に寄与する。

#### ○学会活動等

特になし

#### ○地域連携・社会貢献等

愛知大学野球連盟理事

## ○自己評価

また硬式野球部長として大学を代表する硬式野球部となるべく部活動の運営に尽力し、本学学生生活動全体の支援となるべく活動を推進した。

## V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

「三つの言葉」と「コンセプトフレーズ」の理念を日々の業務の中心に置き、教育研究と学務の活動を通じて自己研鑽に邁進する。一人一人の学生の成長を支援する教育者として自己の潜在能力を発揮する。事業計画を念頭を念頭に、1年間の教育実践を遂行する。

## VI 総括

大学教員として、教育・研究活動を中心として、2024年度も教育・学生指導の両面で年間計画のもとに積極的に日々の業務に邁進することができた。1年を振り返ると不十分な点もまだまだあるが大学全体の発展と学生一人一人の成長に貢献し、一つ一つの物事が大学発展の基礎固めとなる業務活動を実践することができた。また学部長補佐兼学科長として学部執行部の運営と学部教育活動の推進の両面で大学の教育活動に大いに貢献することができた。また大学硬式野球部部長として強化指定クラブ運営・推進の業務を担当し、野球部部員一人一人の成長に資する活動ができた。春期リーグ戦での2部降格の現実を受け止めて、愛知大学野球連盟理事の役割を連盟活動において果たすことができた。

以 上